

99 ヒト卵巣粘液性嚢胞腺腫瘍に於ける K-ras 点突然変異及び Proliferation Index の検討

国立小倉病院, 筑後市立病院*

立野信正, 清塚康彦*, 森崎秀富*, 村上文洋*,
今村和夫*

【目的】従来より卵巣癌では, K-ras の点突然変異の頻度は低いとされてきた。しかし, それらの報告を検討すると, 粘液性嚢胞腺癌に関してはその頻度が高いように思われた。そこで今回我々は, 卵巣粘液性嚢胞腺腫瘍に限定し, その腫瘍特異性の一端を明らかにするため, K-ras 遺伝子点突然変異(P.M.)及び, Proliferation Index(P.I) の検討を行った。

【方法】ヒト卵巣粘液性嚢胞腺腫瘍56例(良性17例, 境界悪性15例, 悪性24例)に対し, ck-ras codon 12 P.MをPCR法及び dot blot hybridization法, P.IをFlow cytometry法を用いて検討した。

【成績】P.Mは全症例中11例(19.6%), 境界悪性のみでは2例(13.3%), 悪性群のみでは9例(37.5%)であった。良性群では一例も認められず, 境界悪性群以上に限定すると28.2%であった。P.Mの有無によりその予後に有意差が認められた。P.Iは良性群 26.75 ± 24.8 , 境界悪性群 54.75 ± 20.3 , 悪性群 60.90 ± 18.0 であり, 良性群に対し他の二群が有意に高い値を示した。

【結論】卵巣粘液性嚢胞腺腫瘍においてK-ras P.Mは癌化への early event である可能性を示した。粘液性嚢胞腺癌は, 従来報告されてきた卵巣癌全体としてのP.Mよりも高い値を示した。この事は今後, 組織型別癌遺伝子検索の必要性を考えさせられた。P.Iは境界悪性群, 良性群を鑑別する際の傍証となり得る可能性を示した。

100 ヒト婦人科由来細胞株を用いたRb蛋白 とhsc 73の選択的分子会合

札幌医大, 同第一病理*

二瓶岳人, 佐藤昇志*, 寒河江悟, 工藤隆一

【目的】昨年, 変異型 p53蛋白と73kD heat shock cognate protein(hsc 73)が選択的に分子会合するということを報告した。同じ癌抑制遺伝子産物であるRb蛋白についても種々の細胞蛋白と複合体をつくり, それらの蛋白の機能を調節することにより細胞周期を制御しているのではないかと想像されている。今回, 我々はRb蛋白とhsc 73が選択的に分子会合していることを確認したので報告する。

【方法】細胞株はヒト婦人科由来の卵巣癌株TYK-nu, またHeLaを用い, 0.5%CHAPS lysis bufferにてcell lysateを作製した。Affigel-IgGに抗Rb抗体, 抗hsc 73抗体を結合させ, その後に cell lysateを反応させた。その免疫沈降物をSDS-PAGE, Western blot を行った後, 酵素抗体法で検出した。

【成績】Rb蛋白(110kD)を認識する Mh-Rb-02Pで免疫沈降すると, hsp 70 subfamilyのひとつであるhsc 73を認識する 3a3では検出できたが, subfamilyのhsp 72を認識する C92では検出できなかった。逆に, 3a3で免疫沈降しても Mh-Rb-02Pにて検出できた。また, この分子会合物を ATPにて incubateするとdose-dependentにdissociateしたが, ADP, ATP γ S ではdissociateしなかった。

【結論】1. 婦人科癌細胞株においてRb蛋白はhsp 70subfamily のうちhsc 73と選択的に会合する事をはじめて報告した。2. この分子会合はATP-dependent にdissociateした。